



ミニガイド No.30

瀬戸内海の海浜植物

はじめに

大阪市立自然史博物館では、2017年の夏に特別展「瀬戸内海の自然を楽しむー生き物のにぎわいとその恵みー」を開催します。この特別展に向けて博物館の学芸員や博物館友の会の人たちが瀬戸内海のあちこちの海辺に出かけて生き物を観察し、調べてきました。観察や調査を進めるうちに、海浜植物の面白さをいろんな人に知ってほしい、海浜植物のファンが増えてほしいと思うようになり、瀬戸内海の海浜植物の入門書としてミニガイドを作ることにしました。

このミニガイドをつくるためにあちこちの海辺に出かけ、観察し、写真を撮りました。その中で今まで気づいていなかった海浜植物の魅力、言わば「萌えポイント」をたくさん見つけることができました。これらの新発見はミニガイドのあちこちに盛り込まれています。海浜植物のどこに魅力を感じるかは人それぞれ。まずはこのミニガイドを持って瀬戸内海の海浜植物を楽しむことから始めてみましょう。その中で自分なりの「萌えポイント」を見つけてみてください。

目次

本書での瀬戸内海の範囲	2
「海岸植物」と「海浜植物」	2
海浜植物の生態	3
海浜の地形と植生	4～5
図鑑ページの見方	6
語句説明	7
海浜植物の紹介	8～39
コラム：ハマビシが生える場所	13
コラム：たどり着いてはみたけれど	18
コラム：夏休みの落とし物	22
コラム：テニスボール散布!?	28
コラム：はまにがなもどき	36
塩湿地の植物の紹介	40～44
瀬戸内海の海浜植物の現状と課題	45
瀬戸内海のオススメ海浜	46～47
瀬戸内海のオススメ塩湿地	47
瀬戸内海の海岸植物一覧	48～49
参考文献・生物名等さくいん	50

瀬戸内海の家浜植物



表紙に出てくる植物。本編で名前を確かめてみよう。

表紙の絵は、夏の瀬戸内海をイメージしてこんな海浜があったらいいなという理想の海浜を描いてもらいました。

本書での瀬戸内海の範囲

様々な瀬戸内海の定義があるが、本書では、大阪湾から周防灘までの本州・四国・九州に囲まれた海域を瀬戸内海とした（図1）。



図1. 本書での瀬戸内海の範囲（水色で示した部分）と海域名。

「海岸植物」と「海浜植物」

海岸に特有の環境に生育する植物を「海岸植物」と呼ぶ。海岸植物の生活場所は、(a) 砂や礫の海浜、(b) 塩湿地、(c) 岩場・海崖、(d) 海岸風衝草原・低木林、(e) 浅海域の5つに分けられる（図2）。

海岸植物のうち主に (a) 砂や礫の海浜に生育する植物を「海浜植物」と呼ぶ。本書では、瀬戸内海沿岸の海浜植物と、内陸に生育するが海浜でもよく見られる植物、計41種を紹介する。また、塩湿地の植物13種も簡単に紹介する。



図2. 海岸植物の生活場所。①砂の海浜，②礫の海浜，③塩湿地，④岩場，⑤海岸風衝草原，⑥浅海域。

海浜植物の生態

長い根や地下茎 海浜では、風に吹かれて砂がよく動く。海浜植物の多くは長い根や地下茎を持つことで、砂が動いて根が露出したり、植物体が埋もれたりしても枯れずに生育できる（図3）。根や地下茎の伸ばし方は、植物によって様々である。

変わった葉 海浜植物の葉は、厚い葉、てかてかの葉、粉を吹いたような葉、毛の多い葉など、変わったものが多い。このような葉は、地表面が乾燥しやすい海浜において、水分を効率的に使うのに役立っていると考えられる。

浮かぶタネ 海浜植物の中にはタネが水に浮くものがある。水に浮くタネは海流や潮流に乗って遠くの海浜へ運ばれる。このようなタネの運ばれ方を「海流散布」と呼ぶ。タネが浮く仕組みは、中に空気が入っている、一部が繊維質やコルク質であるなど、植物の種類によって様々である（図4）。海流散布するタネの多くは、長い間、海水に浸かっているにもかかわらず発芽能力を失わない。

海流散布の利点として「大きく重いタネでも水に浮きさえすれば遠くまで運ばれる」ことが挙げられる。これは、風散布のタネが小さく軽くなければ遠くまで運ばれないこととは対照的である。大きなタネは、発芽後に使える栄養を多く蓄えているので、海浜の厳しい環境で定着するのに役立っていると考えられる。

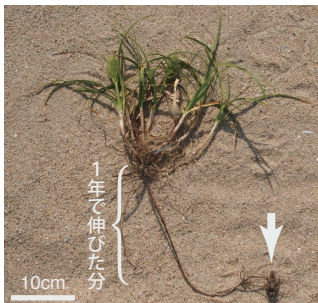


図3. コウボウムギの地下茎。白い矢印の部分は前年の株元だったところ。1年で伸びた長さがわかる。

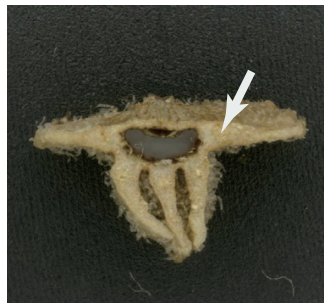


図4. ハマボウフウのタネの断面。白い矢印で示した薄黄色の部分が軽いため海水に浮く。中心の灰色の部分が種子。

海浜の地形と植生

海浜の地形と植生の関係について説明する。これらの関係を知っておくと海浜植物をより楽しめるようになる。

外浜 干潮時の汀線（波打ち際）よりも海側。

前浜 外浜より陸側で、満潮時に波が来るところまで。波により常に地表が攪拌されるため植物は生育できない。

後浜 平常時は波が来ないが、台風などによる大波が来る場所。年に数回または数年に1回の頻度で波によって植生が破壊される。一年草が主体となる。

砂丘 風で運ばれた砂が堆積した丘状の場所。多年草や小低木が主体となる植生がよく見られる。

砂丘では、汀線からの距離に応じて、風で運ばれる砂の量などが連続的に変わり、これに応じて生育する植物が異なる。地表面の砂の移動の違いより、3つの植生帯に分けられる。

不安定帯 砂の移動が盛んな場所。コウボウムギなど、砂に埋もれても伸びあがり地表に出られる植物が多い。

半安定帯 砂の移動がほどほどの場所。主にケカモノハシが優占する。

安定帯 砂の移動がほとんどない場所。主にチガヤやハマゴウが優占する。

このように、汀線からの距離に応じた植物の移り変わりを植生の成帯構造（Zonation）と呼ぶ。海浜幅が狭い場合は、いくつかの植生帯が欠けることがある。また、防潮堤がつくられ風が弱められた場合は、汀線に近くても安定帯の植物が見られることがある。安定帯よりも内陸側では、マサキやトベラなどの海岸低木林やクロマツを植えた海岸防風林がみられる。

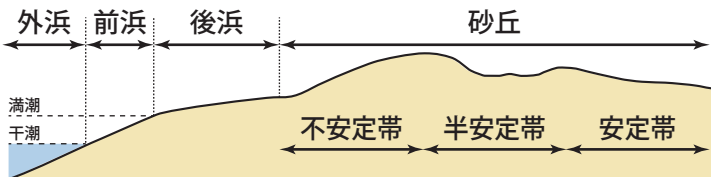


図5. 海浜の地形と植生帯の概念図。



外浜と前浜. 常に波をかぶる前浜では植物が生えない.



後浜. 一年草であるオカヒジキが優占している.



砂丘の成帯構造. 不安定帯でコウボウムギが優占、半安定帯ではケカモノハシが優占、安定帯ではチガヤが優占していた.



小さな浜でも成帯構造ができる. 海側からオカヒジキ, ハマヒルガオ, ハマダイコン.



安定帯の陸側にクロマツを植えた防風林. 防風林の林床に海浜植物が生育していることも.

図鑑ページの見方

種の解説ページの定型項目の例

① ヒルガオ科 ⑥ レア度：めっちゃ見る ★★ ★

② ハマヒルガオ ③ *Calystegia soldanella* (L.) R.Br.

④ 国内分布：北海道～琉球 ⑦ 多年草 ⑧ 在来種

⑤ 開花時期：5～6月

- ①科名、②和名および③学名 原則、北隆館の日本維管束植物目録にしたがった。また掲載の順序もこの書籍の順序にしたがった。よく使われる別名は本文に示した。
- ④国内分布 図鑑に書かれている国内の分布を示し、国外の分布は省略した。大隅諸島から八重山諸島の範囲は「琉球」と表記した。外来種の場合は原産地を示した。
- ⑤開花時期 図鑑および著者らの観察記録にもとづき瀬戸内海沿岸での開花時期を示した。一部の植物については、博物館の標本のラベルを参照した。
- ⑥レア度 著者らの調査や経験をもとに、瀬戸内海沿岸でのめずらしさを「めっちゃ見る」「たまに見る」「見つけたらすごい」の三段階で評価した。
- ⑦生活型 以下の4つの生活型のどれかを明記した。
夏型一年草：春に発芽、夏から秋に開花結実して枯死する草。
冬型一年草：秋から早春に発芽、春から初夏までに開花結実して枯死する草。ただし、本書のウラギクのように発芽翌年の秋に開花結実する植物もいて、このような植物は「まるまる一年草」とでも呼びたくなる。
多年草：2年以上生存する草本。
低木：背の低い木。大きくても5m ぐらいまでの高さ。
- ⑧在来種・外来種 どちらかを示した。
在来種：その地域に自然に分布している生き物。
外来種：人の活動によって自然の分布の範囲外に運ばれた生き物。

これらの定型項目に加えて、文章と写真で瀬戸内海の内海沿岸植物の魅力をお届けする。本書で使われている写真は特に断りが無い限り瀬戸内海沿岸で撮影したものである。

語句説明

地下茎 地中に成長する茎（図6）。

匍匐枝 地際の茎から横に長く伸びる、地表をはう枝のこと。

小穂 イネ科やカヤツリグサ科における、1～多数の花からなる花序の基本的な単位（図7）。雄花だけつく小穂を雄小穂、雌花だけつく小穂を雌小穂を呼ぶ。

雌雄異株 雄花と雌花が同じ株に混在せず、別々の株につくこと。対義語は「雌雄同株」。

属 生物分類の単位の一つで「種」の上の分類群。属よりも上の分類群が「科」。

交雑 異なる分類群どうしが交配すること。特に異なる種どうしの交配である「種間交雑」を指すことが多い。

寄生植物 他の植物に寄生している植物。葉緑素を持ち自分でも光合成を行うものを半寄生植物、葉緑素を持たず自分では光合成を行わないものを全寄生植物と呼ぶ。本書のアメリカネナシカズラやハマウツボは全寄生植物。他の植物から栄養を得るための「寄生根」と呼ばれる特殊な根をもつ。

絶対送粉共生 ある植物と花粉を運ぶ昆虫の1対1の種特異的な共生関係。幼虫が共生相手の植物の胚珠や種子を食べて育つ。イチジクコバチ類とイチジク属植物、ハナホソガ類とコミカンソウ科植物、ユッカガ類とユッカ属植物の共生関係が知られている。本書のアツバキミガヨランはユッカ属。

特定外来生物 外来種のうち、外来生物法で飼育・栽培・保管・運搬などが原則禁止されているもの。

「タネ」という表現について

本書では種子が散布される際に親個体から分離する器官を「タネ」と表現する。「タネ」は生態学の専門用語では散布体に相当。植物の種類によって「タネ」は果実であったり、種子であったり、枝や葉を含んでいたりと様々。

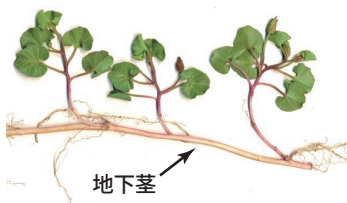


図6. ハマヒルガオの地下茎。



図7. カヤツリグサ科の花序と小穂。

ヒガンバナ科

レア度：めっちゃ見る★☆☆

ハマオモト

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

国内分布：関東以南～琉球

開花時期：6～9月

多年草

在来種

別名ハマユウ。瀬戸内海のアチコチの海浜で見かけるが、庭や公園に植えられることも多く、海浜で見かけても自生か逃げ出したものかの判断が難しい。タネは直径2～3cmで水によく浮き、海流散布する。以前、このタネを机の上に置いといたら、土も水もないのに発芽して、そのまましばらく生きていた。大きなタネは養水分をたっぷり蓄えていると実感した。タネを拾ったら試してみよう。



キジカクシ科

レア度：めっちゃ見る★☆☆

アツバキミガヨラン

Yucca gloriosa L.

原産地：北米

開花時期：6, 10月(年2回咲く)

低木

外来種

本種を含むユッカ属は、ユッカガという蛾と絶対送粉共生(p7)の関係にある。日本では花粉を運ぶユッカガがいないため結実しないと言われている。結実しないのにあちこちで見かけるのはいったいなぜだろうか。本種の生育型を図鑑等にしながら「低木」にしたが、幹が肥大成長しているように見えないので「木っぽい多年草」と言いたいところ。木と草の定義は難しい。



ハタガヤ

Bulbostylis barbata (Rottb.) Kunth

国内分布：本州～琉球

穂のある時期：6～10月

一年草
夏型

在来種

とても細い茎と葉を持つ高さ 10cm ほどの小さな植物で、全体の形は花火のよう。砂丘安定帯や海岸クロマツ林の林内にときどき生えているが、目立たず見落とされがちなので、探してみしてほしい。畑に生えるのでハタガヤという名前が付いたそうだが、筆者らは畑では見たことがなく、もっぱら砂の海浜でみかける。



背景にとけこんでいるが細い茎の先にまとまった花序をつける。



花序をアップで見ると金平糖のような形をしている。

ハマアオスゲ

Carex fibrillosa Franch. et Sav.

国内分布：本州～琉球

穂のある時期：4～6月

多年草

在来種

弧を描く地下茎が素敵。名前の由来は、アオスゲの仲間で浜に生えることによる。砂丘安定帯や海岸クロマツ林の林内に生える。よく似たイソアオスゲよりも果胞の脈が太く明瞭な点で見分けられると言われているが、ときどき紛らわしいものがある。



コウボウムギ、コウボウシバとともに海浜のスゲ属御三家。



掘り出した地下茎。伸び方がよくわかる。

コウボウムギ

Carex kobomugi Ohwi

国内分布：北海道～琉球
穂のある時期：3～9月

多年草

在来種

砂丘不安定帯の代表的な植物。砂に埋もれても、負けずに伸びて地上にでてくる。雌雄異株だが、まれに1つの穂に雄花と雌花の両方がつくことがある。砂に埋もれた前年の葉は、分解されて細長い繊維が残り、筆のようになる。



砂がよく動く場所を好む。3ページに地下茎を掘り出した写真がある。



①② 開花期のコウボウムギの花。①雄株。黄色く飛び出しているのが雄しべ。②雌株。白く飛び出しているのが雌しべ。③コウボウムギの「筆」を掘り出して字を書いてみるとちゃんと使える。

コウボウシバ

Carex pumila Thunb.

国内分布：北海道～琉球
穂のある時期：4～6月

多年草

在来種

生き物の豊かな自然の海浜から、埋立地に囲まれた都市の海浜まで、様々な海浜で見られる。開発された地域でも、コウボウシバがいるとまだギリギリ海辺が生きているなと思える。株元から生える長い葉はコウボウムギと似ているが、慣れれば遠くからでも一目で見分けられる。



黄緑色のつぶつぶした果胞がかわいらしい。写真の右下端には子葉のついたハマヒルガオの実生がこっそり写っている。



①コウボウシバの花序。雄小穂と雌小穂が同じ株に混在する。②葉の裏の比較。コウボウシバの葉は濃緑色で脈の間隔が広い。コウボウムギの葉は黄緑色で脈の間隔が狭い。③コウボウシバの根元は赤くなる。

ビロードテンツキ

Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br.

国内分布：茨城県・富山県以西～琉球

穂のある時期：8～10月

多年草

在来種

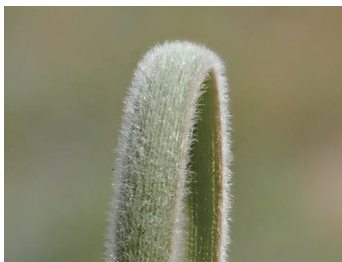
ビロード状の毛が全体に生えており、手触りがとても気持ち良い。出会ったらぜひ触ってみよう。ただし、気持ちよさ（つまり毛深さ）には個体差がある。瀬戸内海では生育地が少ない。タネは海水にほとんど浮かないので、海流散布はあまりしなさそう。



砂丘の半安定帯から安定帯の裸地的な場所に生える。地味なので慣れるまでは見落としてしまうかも。周りに生えているのはオニシバ。



ほかのカヤツリグサ科の植物と同様に、小穂が集まって花序をつくる。



葉の裏の毛の様子。かなり毛深い個体の葉を丸めて撮影。見つけたら個体ごとの毛深さも比べよう。

チガヤ

Imperata cylindrica Raeusch. var. *koenigii* (Retz.) Pilg.

国内分布：北海道～琉球

穂のある時期：5～6月

多年草

在来種

海浜では砂丘の安定帯でハマゴウなどと一緒に生えることが多い。海浜以外では、農村の畦や河川堤防など、年に数回の草刈りが行われる明るい場所に群生する。それに対し、海浜では草刈りがなくてもチガヤ群落が持続する。晩秋には葉が赤くなりとても美しい。



5月ごろネコの尻尾のような穂つける。



輝く穂がうつくしい。

コラム：ハマビシが生える場所

ハマビシは夏から秋に黄色の花を咲かせ、鋭い刺を持つヒシに似たタネをつけます。図鑑には「海辺の砂浜に生育する」と書かれていますが、海浜から少し内陸側に入った砂地の裸地的な場所でも見かけます。例えば、海に近いお墓や畑の砂地に生えていたりします。海外のハマビシの自生地は内陸の砂漠など、乾燥した場所です。名前に「浜」とついていますが、日当たりがよく乾燥する砂地を好むため海浜にも生えるようです。(楠瀬雄三・長谷川匡弘)



①ハマビシの花. ②ハマビシのタネ. ③ハマビシの生育地. 香川県某所のお墓.

ケカモノハシ

Ischaemum antheploroides (Steud.) Miq.

国内分布：北海道～九州

穂のある時期：7～9月

多年草

在来種

砂丘の半安定帯の代表的な植物。瀬戸内海では大きな砂丘がないためか、生育地がとても少ない。全体的に毛深い。穂をつまんで開くとカモのくちばしのように2つに分かれる。それで「毛・鴨の嘴」と呼ばれる。しっかりとした根を株の周囲に長く広く伸ばす。淡路島の吹上浜では、昭和の中頃まで根を束ねてタワシをつくっていた。



①砂丘で株立ちになって生えることが多い。②穂の拡大。③カモのくちばしのように2つに分かれた穂。④葉の裏の毛の様子。長い毛がたくさん生えて毛並が良い。葉を丸めて撮影。⑤吹上浜のケカモノハシの根を束ねたタワシ。作ったことがある方への聞き取りに基づき作製。⑥鳥取砂丘ではかつて根を束ねてほうきをつくっていた。

ネズミムギ類

Lolium spp.

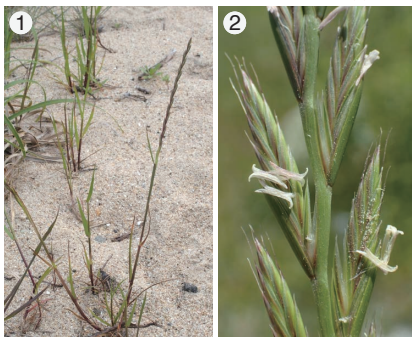
原産地：ユーラシア大陸

穂のある時期：5～6月

一年草
冬型

外来種

ここでは、ネズミムギ、ボウムギ、ホソムギなどをネズミムギ類と呼ぶ。ネズミムギ類は交雑（p7）しやすく、また掛け合わせて品種改良がおこなわれたこともあり、同定が困難な個体がある。ネズミムギ類の生活型には一年草も多年草もあるが、海浜に生えるものはほとんどが冬型一年草。晩秋から早春に発芽し、5月ごろに開花し、6-7月にはタネをばらまいて枯死する。



①ボウムギと思われる個体。他のネズミムギ類に比べて貧弱な印象。②ネズミムギと思われる小穂。芒が出るのがネズミムギの特徴。

オニシバ

Zoysia macrostachya Franch. et Sav.

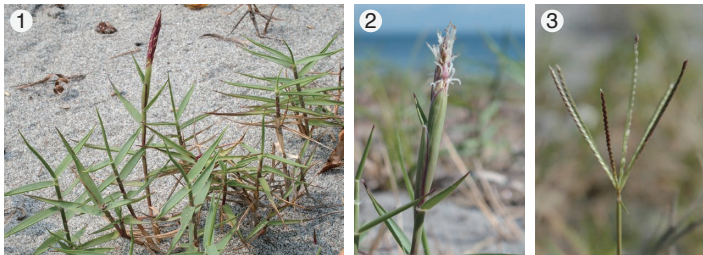
国内分布：北海道～琉球

穂のある時期：6～8月

多年草

在来種

芝生のシバと同じ属だが、葉の先が硬くて尖るのが特徴。指先でつくと痛いくらいに尖っている。のっぺりと平らな海浜でよく見かける。タネを海水に浮かべると一週間程度で沈むため、長距離の海流散布はあまりしなさそう。葉はギョウギシバと少し似ているが、穂の形が全然違う。



①見るからに硬そうな葉。見つけたら触ってみよう。②オニシバの穂。③ギョウギシバ。穂はオニシバと形が異なる。葉はオニシバよりやわらかい。

タイトゴメ

Sedum japonicum Siebold ex Miq. subsp. *oryzifolium* (Makino) H. Ohba

国内分布：関東以西～九州・奄美大島

開花時期：5～7月

多年草

在来種

海岸の岩場によく生えているが、砂の海浜やクロマツ林の中でもたまに見かける。ご飯粒のような形の肉厚な葉と、黄色い星型の花が特徴。園芸植物として人気のあるセダムと同じ属。



花は5数性で、5枚の萼、5枚の花弁、10本の雄しべ、5本の雌しべがある。



葉の色は基本的には緑だが赤くなることもある。

マメ科

レア度：見つけたらすごい ★★★

ハマナタマメ

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

国内分布：千葉県・山形県以西～琉球

開花時期：6～8月

多年草

在来種

南方系のつる植物で、瀬戸内海では礫の海浜や岩場でときどき見かける。桃色の花を夏に咲かせる。花は普通のマメ科の花が上下にひっくり返った形をしている。



①花。身近なマメ科の花の形や向きを比べてみよう。②未熟な果実と葉。③完全した果実と種子。

ハマエンドウ

Lathyrus japonicus Willd.

国内分布：北海道～琉球

開花時期：4～5月

多年草

在来種

ハマダイコンとともに春の海浜を彩る。砂の海浜だけでなく礫の海浜で見ることもある。春にいちばん元気で、夏には葉が減る。



群生すると春の浜が紫のじゅうたんに。



①よく見る紫色の花。②まれに白花があり，見つけたとうれしい。③葉の裏面．粉をふいたような白っぽい葉の先端に巻きひげがある．大きな托葉も特徴。④莢（さや）の中の種子。

コマツヨイグサ

Oenothera laciniata Hill

原産地：北アメリカ

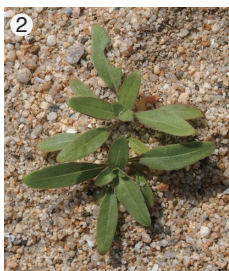
開花時期：通年

一年草
冬型

多年草

外来種

あちこちの砂の海浜で見られる。日没ごろに花びらをピンと張って開花し、翌朝にはしぼんでだらしくなり、昼ごろにはオレンジ色に変色する。黄色い花なのに、月の明るい夜には花が白く光って見える。一年中花を咲かせ、次々とタネをつける。基本は冬型一年草だが、1年以上生きて、多年草的にふるまうこともある。



①花。細長い円柱形のもののは若い果実。②鋸歯のない葉。③鋸歯のある葉。

コラム：たどり着いてはみたけれど

瀬戸内海でグンバイヒルガオを見つけたら宝物を拾ったような気持ちになります。本種は、熱帯～亜熱帯が分布の中心で、日本だと沖縄ではおなじみ。開花結実の北限は宮崎県あたりとされます。タネは海水に浮いて長旅をします。瀬戸内海で見つけた個体は、遠く南の島からたどり着いたのかもしれませんが。瀬戸内はきっと寒くて冬を越せないだろうけど、秋まで楽しく過ごしてほしいと思います。

海浜でオニグルミの稚樹をみることがあります。河辺に生えるオニグルミのタネが川を下って海に出て海浜にたどり着くのでしょうか。海浜はオニグルミの生育に適していませんが、タネが持っている栄養のおかげか、高さ30cmくらいまで育っているのをよく見ます。どのくらいのおおきさまで育つのか記録したら面白そうです。



①瀬戸内海で出会うと嬉しいグンバイヒルガオ。②オニグルミの実生。まだタネがついている。

ハマダイコン

Raphanus sativus L. var. *hortensis* Backer f. *raphanistroides* Makino

国内分布：北海道～琉球

開花時期：3～5月

一年草
冬型

在来種？

春にあちこちの海岸で白から紫の花を咲かせる。春の野草としては背が高いこともあり、よく目立つ。夏には一生を終え消えてしまい見かけなくなる。野菜のダイコンが逃げ出して野生化したと書かれていることがあるが、その実態はまだよくわからない。



防潮堤のそばなど、ゴミがたまるような場所によく生える。根は野菜のダイコンに比べると小さめだが、色も形も香りもちょうどダイコン。ただし、かじるととても辛い。



①花。花弁の脈が目立つ。色のグラデーションがきれい。②果実。先の尖った電波塔のような形。③葉。複葉で大きさは葉のつく位置や株によって様々。花や果実、葉は野菜のダイコンとそっくりなので見比べてみよう。

ママコノシリヌグイ

Persicaria senticosa (Meisn.) H.Gross

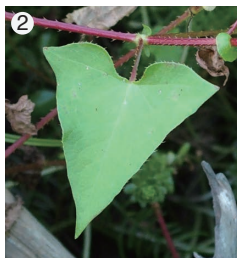
国内分布：北海道～琉球

開花時期：5～10月

一年草
夏型

在来種

砂の海浜ではあまり見かけないが、礫の海浜に多い。三角形の葉とトゲトゲのある茎が特徴。湿った場所であれば海浜以外にもあちこちに生えており、海浜は生育する場所の中心ではないようだ。



- ①花。小さいけどよく見るとピンクと白の二色でとてもきれい。②三角形の葉。
③茎に生える下向きのとげは絡みつきやすく、引っかかると痛い。

アキノミチヤナギ

Polygonum polyneuron Franch. et Sav.

国内分布：北海道～九州

開花時期：8～10月

一年草
夏型

在来種

背丈の割には花も葉もとても小さくて地味。花はほんとは目立たないので気付かないかもしれないが、思いっきり近寄って、できればルーペを使って見てみよう。



- ①海岸や河口の砂地でよく見かけるが、塩湿地と海浜の中間的な場所にも生える。
②葉。ヤナギの葉のような形をしている。③花。一見地味だがよく見るときれい。

ハマナデシコ

Dianthus japonicus Thunb.

国内分布：本州～琉球

開花時期：6～8月

多年草

在来種

別名フジナデシコ。海岸の岩場でよく見かけるが、海浜でもときどき出会う。派手な花が多い海浜植物の中でも特に派手。カーネーションと同じ属。母の日にハマナデシコを贈りたいが、残念、母の日にはたぶんまだ咲いてない。



一本の茎に桃色の花をたくさん咲かせることが多い。右の写真の花にはフトハナバチ属のハチが訪れている。海浜植物の花に来る虫の観察も海浜散策の楽しみの一つ。



①花が終わった後は茶色く筒が残って目立つ。筒の中にはタネがたくさん入っている。②肉厚でツヤツヤの葉が十字対生する。③12月の葉の様子。冬越しの姿まで目を向けると海浜植物がますます楽しくなる。

シロバナマンテマ

Silene gallica L.

原産地：ヨーロッパ

開花時期：4～6月

一年草
冬型

外来種

砂の海浜によく生えている。白色や桃色の花びらをつける。つぼ型のがくにはネバネバした毛が生えている。同じ種の変種で分けられているマンテマは、花びらに赤い大きな斑点がある。瀬戸内海の家浜ではシロバナマンテマの方をよく見る気がする。



①シロバナマンテマの花. ②つぼ型のがくに毛がたくさん. ③マンテマの花.

コラム：夏休みの落し物

秋の浜辺で見慣れない植物に出会いました。ウリ科だろうと見当はつくけど野草図鑑のウリ科のページには出ていません。「もしかしてすくめずらしい植物かも!？」なんて興奮したけど、なんか見覚えが…。「そうだこれスイカだ!」なるほど、見つけた場所は夏には海水浴場だったから、夏休みに誰かがスイカを食べて、捨てたタネが発芽したと考えれば納得がいきます。もしかしたらスイカ割りで飛び散ったタネかもしれない。浜辺が天然のスイカ畑になっているのは見たことないので、発芽したスイカは大きくならず枯れてしまうのでしょう。



浜辺で見つけたスイカ.



カボチャが生えていたことも.

ホソバハマアカザ

Atriplex patens (Litv.) Ilijin

国内分布：北海道～九州

開花時期：8～10月

一年草
夏型

在来種

塩湿地でよく見かけるが、海浜にもときどき生えている。葉は細長く少し肉厚。育ち盛りの真夏でも、一株の中に一枚～数枚ほど紅葉した葉がまじる。花は晩秋に咲くが地味で目立たない。

①



2cm

②



③



①葉、夏でも一部の葉が紅葉することが多い。②果実を包む苞がひし形や三角形になる。③秋に紅葉した株、秋の海浜を彩る植物。

マルバアカザ

Chenopodium acuminatum Willd.

国内分布：本州～琉球

開花時期：7～9月

一年草
夏型

在来種

小さくて丸っこいたまご形の葉がとても可愛い。砂丘でよく見かける。砂丘の在来植物には多年草が多いが、マルバアカザは数少ない一年草。同属のシロザもしばしば海浜に生える。

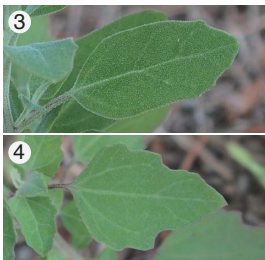
①



②



③



④

①砂の海浜の生えている様子。②たまご形の葉の縁には半透明の膜がある。③シロザの葉、海浜に生えるシロザの中には葉が丸く厚くなり、図鑑に載っているシロザとは似ていないものがある。④図鑑によく載っている形のシロザの葉。

オカヒジキ

Salsola komarovii Iljin

国内分布：北海道～琉球

開花時期：6～10月

一年草
夏型

在来種

後浜の打上げ帯は、荒天のたびに波で植物が流されるため、多年草には生きづらい。一年草であるオカヒジキは、そのような打上げ帯に生え、発芽から結実までを短い期間で完結する。春先の透明感のある円柱形の葉はシャキシャキとした食感で、葉内の水分にほんのり塩味がついていておいしい。



オカヒジキの葉。左は初夏までの柔らかい葉。右は夏以降に硬くなった葉。硬くなった葉は筋張って食べられない。



①花。葉の根元につく。小さくて地味なのでオカヒジキを見つけたらよく探してみよう。②後浜に一列に並んで生えることがある。③芽生え。

ツルナ

Tetragonia tetragonoides (Pall.) Kuntze

国内分布：北海道西南部～琉球

開花時期：4～11月

多年草

在来種

漂着物の多い場所に生える。また、防潮堤の脇など浜の後ろの方にも生える。ゴミがたまっているような場所に多い印象があるが、そういう場所にタネが流れ着きやすいからか、富栄養な環境が好きだからか、よくわからない。葉は食用にされ、地域によっては流通していた。



葉は三角形で肉厚。葉の根元に黄色い花をつける。



タネはトゲトゲしており、独特な形をしている。



芽生え。周りに落ちている茶色いのはタネ。

ウチワサボテン類

Opuntia spp.

原産地：アメリカ大陸

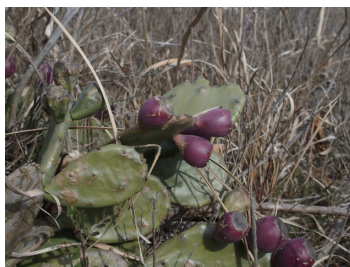
開花時期：??

多年草

外来種

瀬戸内海沿岸では砂の海浜や海岸崖地でたまに見かける。冬場も元気な様子を確認しているので、越冬し定着しているようだ。野生植物や外来植物の図鑑には情報がなく、種名を決められなかった。園芸植物の図鑑や海外の文献を見ているとトゲの有無や茎節（サボテンの平らで葉のように見える部分）の形が識別に重要なようだ。瀬戸内海の各地で撮った写真を見比べているとどうも複数の種類が野生化しているようにも見える。

これらのウチワサボテン類が生えてる場所の近所から逃げ出したものか、何らかの手段で海浜から海浜へと自然に拡がっているのかとても気になっている。自然に拡がっているなら、今後、瀬戸内海で増える可能性がある。まずはどんな種類がどれくらい野生化しているのか明らかにしないとイケない。



瀬戸内海の各地で野生化しているウチワサボテン類。

ハマボッス

Lysimachia mauritiana Lam.

国内分布：北海道～琉球

開花時期：5～6月

一年草
冬型

在来種

主に岩場に生える植物だが、砂の海浜でもときどき出会う。春先に見られるドーム状の葉、初夏の白い花、盛夏の赤く熟した果実と、どの季節に見てもかわいらしい。北海道から沖縄、さらには東南アジアまで広く分布するが、南に行くと花が薄ピンクになったりして、ずいぶんと雰囲気が変わる。



1つの花は小さいがたくさん咲くのでボリューム感がある。葉は肉厚。



①12月に撮影したドーム状の葉。夏の茎葉よりも丸い。②盛夏に赤く熟した果実。雌しべの跡がとんがって見える。③岩場に生えている様子。

オオフトバムグラ

Diodia teres Walter

原産地：北アメリカ

開花時期：7～8月

一年草
夏型

外来種

花が桃色で小さく、葉が細い。同じく北アメリカ原産のアカネ科の外来種にメリケンムグラがある。メリケンムグラは白くて大きな花をつけ、葉が幅広いことでオオフトバムグラと区別できる。海浜でよく見かけるのはオオフトバムグラで、砂丘によく生えている。台風で高波をかぶった後にオオフトバムグラが茶色く枯死しているを見たことがある。おそらく海水（塩分）が苦手なのだろう。



オオフトバムグラ。



メリケンムグラ。

コラム：テニスボール散布！？

浜辺に漂着したテニスボール。オオオナモミ、ウマゴヤシなど、ひっつき虫がついていることがあります。ひっつき虫は動物の毛や鳥の羽毛にひっついて運ばれる付着動物散布のタネです。どうやらひっつき虫がテニスボールの船に乗って海を旅することがあるようです。このようなタネの散布を「テニスボール散布」とでも呼びたくなりますが、長い進化の歴史の中でひっつき虫とテニスボールが出会ったのはつい最近のこと。たまたま、ヒトが作った毛深くて水に浮かぶヤツ（テニスボール）にひっついて海を旅しただけでしょう。

海辺に生えているオオオナモミを見て「テニスボールに乗ってきたのかも…」なんて想像するとワクワクしますが、テニスボール散布ははたして有効でしょうか？それを確かめるにはひっついてタネが海水に浸かっても発芽能力を失わないかなど、確かめたいことがいくつかあります。誰か研究してみませんか？

ひっつきむしがひっついた
テニスボール

スナビキソウ

Heliotropium japonicum A.Gray

国内分布：北海道～九州

開花時期：5～6月

多年草

在来種

とても美しい花を低い位置で咲かせる。見つけると思わず寝そべって写真を撮ってしまう魅力的な植物。日本海側の海浜では普通に見られるが、瀬戸内海では産地は限られる。「渡り」をする蝶のアサギマダラが北上中に吸蜜に訪れる植物で、淡路島北部や大分県姫島の海岸では、そのような光景がよく見られる。



花卉の外側は白いが中央部は黄色い。瀬戸内海ではほとんど見られない。



細長い葉が茎にたくさんつく。葉のたくさんの毛も観察ポイント。



吸蜜に訪れたアサギマダラ。観察に適した時期は5月ごろ。

ハマヒルガオ

Calystegia soldanella (L.) R.Br.

国内分布：北海道～琉球

開花時期：5～6月

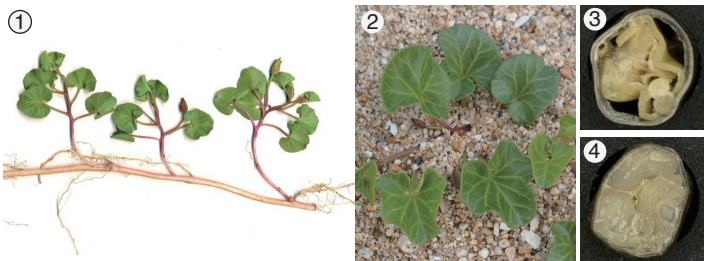
多年草

在来種

海浜であれば場所を選ばずどこにでもあり、防潮堤のコンクリートのすき間にも生える。地下茎を伸ばせる場所なら砂地でなくても大丈夫らしい。徳島の海辺に住む人から「夏の灼けた砂浜を裸足で歩くときはハマヒルガオのひんやりした葉の上で足の裏を冷やしながらか休んだ」という話を聞いたことがある。



5月頃、直径5cmほどの花を地表付近に咲かせる。あたり一面をピンク色に染めて咲く景色は圧巻。



①長い地下茎をひく。②葉は丸くて厚ぼったい。③タネの断面。形はアサガオにそっくりだが、中に空洞があり、この浮力で海水に浮く。④同じヒルガオ科のアサガオのタネの断面。中が詰まっている。

アメリカネナシカズラ

Cuscuta campestris Yuncker

国内分布：北アメリカ

開花時期：7～9月

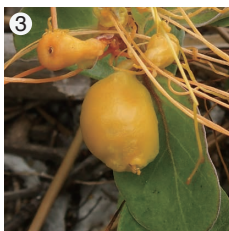
一年草
夏型

外来種

海辺にオレンジ色のもじゃもじゃがあればアメリカネナシカズラかも。寄生根をほかの植物にさし込み、完全に寄生して生活する。葉は退化しており自分では光合成をしない。ハマゴウに絡みついていることが多い。茎はなぜこんな鮮やかな色なんだろう。



釣り糸や漁網が捨ててあるように見えるが、これでも立派な植物。



①花。②寄生根。③ネナシカズラコブフシという虫こぶ。昆虫の寄生によって植物が異常な形に成長したものを虫こぶと呼ぶ。この虫こぶをつくったのはマダラケシツブゾウムシで、寄生植物にさらに寄生している。

ウンラン

Linaria japonica Miq.

国内分布：北海道～本州・四国

開花時期：7～9月

多年草

在来種

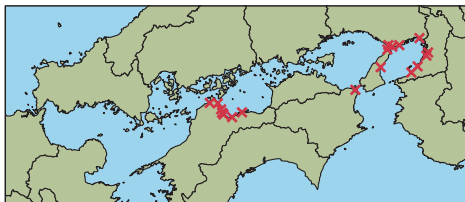
北方系の植物で、日本海側の砂の海浜には普通に生えているが、瀬戸内海沿岸ではとてもめずらしくめったに出会えない。かつては瀬戸内沿岸の各地に生育していたが、現在、確実に見られる場所は2～3ヶ所を残すのみとなっている。これらの場所では保全活動が行われているので、もし見つけても抜いたりしないように。



花はかわいらしく、めずらしさも相まって出会ったときの興奮がすごい。



葉は粉白色。



瀬戸内海の絶滅したと思われる産地の地図。「X」はウンランの標本の採集記録はあるが、現在は生育が確認できない場所。今も残っている自生地は示していない。

ナミキソウ

Scutellaria strigillosa Hemsl.

国内分布：北海道～九州

開花時期：6～8月

多年草

在来種

砂の海浜の後方に生え、「波来草」なのに波が来そうな前線にはあまりいない。ウンランやスナビキソウと同様、日本海側では普通に生えているが、瀬戸内海ではなかなか出会えない。小さい浜など意外な場所で見かけることがある。



花は筒状で長い。



葉は楕円形で対生する。

ハマゴウ

Vitex rotundifolia L.f.

国内分布：本州～琉球

開花時期：7～9月

低木

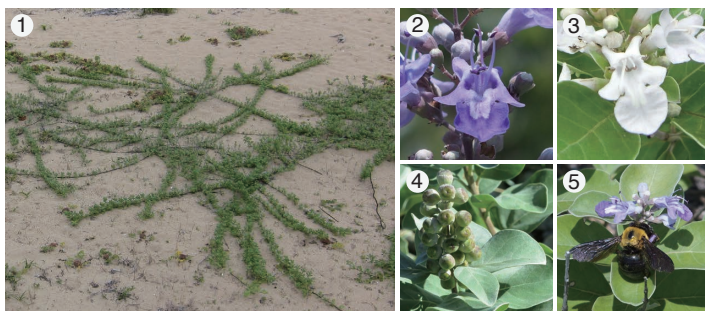


在来種

砂丘の植物としてはめずらしく木本。葉や果実からは、肉料理に合わせるハーブのようなよい香りがする。淡路島の由良や吹上では果実を集めて枕の詰めものとして使っていた。



砂丘の安定帯の代表的な植物。海の家裏側にも生える。冬には落葉する。



- ①枝は地表を這うように伸びて拡がり、1個体で大面積を覆うこともある。
 ②花は紫色。③まれに白花も見られる。④未熟な果実と葉、どちらも丸っこい形。⑤ハマゴウの花にはキムネクマバチがよく訪れる。

ハマウツボ

Orobanche coeruleus Stephan ex Willd.

国内分布：北海道～琉球

開花時期：5～6月

一年草
夏型

在来種

カワラヨモギに寄生する。葉を持たず、自分では光合成をしない。花が終わりタネをつけて枯死した後も長く海浜に佇みつづけており、生育地を訪問するたびに同じ場所で立っているのを楽しめる。瀬戸内海ではとても産地が少ない。見つけたら小躍りして喜ぼう。



①②花. ③枯死して茶色くなくても長く佇む。手前の葉は奇主のカワラヨモギ。

キク科

レア度：たまに見る★★★

カワラヨモギ

Artemisia capillaris Thunb.

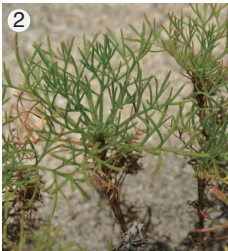
国内分布：本州～琉球

開花時期：9～10月

多年草

在来種

ハマウツボに寄生される。だから、カワラヨモギが生えていたらハマウツボを探してみよう。葉の形が季節によって変わる。冬の葉は全体に白く長い毛が密に生え、まるでセーターを着ているようだ。葉っぱをもむと独特のにおいがする。キュウリの漬物のにおいに似ている気がする。



①花. ②夏の葉。ヨモギの仲間と思えないほど線状に細かく裂けている。③晩秋から冬の毛深い葉。やや幅広くヨモギらしさがある。

ハマニガナ

Ixeris repens (L.) A.Gray

国内産地：北海道～琉球

開花時期：4～10月

多年草

在来種

典型的な砂丘の植物。地下茎を地表面下数センチの深さで水平に伸ばし、ところどころから地面に貼りつくように葉を出す。花も地表に貼りつくように咲く。葉をちぎったときに出てくる乳液を舐めるとたいへん苦く、「苦菜」を実感できる。瀬戸内海では自生地が少なく、見つけたととても嬉しい植物の一つ。



花。右側の葉はハマヒルガオ。



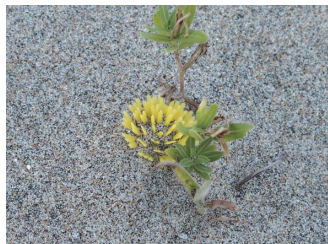
葉にはつやがなく、形はさまざま。



コラム：はまにがなもどき



ハマニガナは瀬戸内海沿岸の海浜で見つけるとうれしい植物です。ハマニガナレーダーを全開にして海浜を歩いていると、遠くに黄色い花が！「よっしゃ！ハマニガナや！」と駆け寄った先にはプラスチック製の菊の花…。これは“海浜植物観察あるある”です。最初は独特の徒労感があったのですが、プラスチックの菊をいくつも見つかるうちにだんだん面白くなってきて、今では「はまにがなもどき」と呼んで、これを拾い集めることも海浜散策の楽しみになっています。



「はまにがなもどき」の生育状況。隣に生えているのはコマツヨイグサ。



「はまにがなもどき」コレクション。意外にも形態変異が大きい。

ネコノシタ

Melanthera prostrata (Hemsl.) W.L.Wagner et H.Rob.

国内分布：関東・北陸以西～琉球

開花時期：7～10月

多年草

在来種

別名ハマグルマ。葉を触ると名前の由来に納得できる。猫の舌を触ったことがない人は逆に「ネコの舌ってこんな手触りなのかあ」と思っしてほしい。典型的な砂丘の植物で、コウボウムギなどといっしょに生えている。南方系で、東南アジアの熱帯域まで分布している。



花の直径は2cm程度。葉の縁にはギザギザがあり、触るとざらつく。



地表に匍匐枝を伸ばして広がる。

ナルトサワギク

Senecio madagascariensis Poir.

原産地：アフリカ南部

開花時期：通年

多年草

外来種

別名コウベギク。徳島県鳴門市で1976年に最初に見つかり、今では本州中部～九州に広がっている。瀬戸内海では淡路島や大阪湾で特に多く、西の方に行くとあまり見ない印象。年中花を咲かせ、次々と結実する。花が少ない冬を彩るので花壇に植えたいが、特定外来生物に指定されており、外来生物法により栽培は禁止されている。



①花. ②タネ. 冠毛があり風で飛ばされる③葉. 細長く、縁に細かいギザギザがある。

ハマウド

Angelica japonica A.Gray

国内分布：関東以西～琉球

開花時期：5～6月

多年草

在来種

防潮堤のそばや海沿いの道端、岩場などに生える。1mを超える背の高さ、太い茎、つやのある大きな葉、やけに存在感がある。食用にするアシタバに似るが、アシタバは茎を切ると鮮やかな黄色い汁がでるので区別できるし、そもそも瀬戸内海にアシタバは自生していない。



①白い細かい花がたくさんつく ②人の背丈より大きくなる。③葉は大きい。

ハマゼリ

Cnidium japonicum Miq.

国内分布：北海道～九州

開花時期：8～10月

一年草
冬型

在来種

砂丘には少ない。むしろ砂丘と塩湿地の中間的な環境、海岸の岩場やコンクリートの割れ目などに生えることが多いようだ。結実後、枯死する。



白くて小さい花をたくさんつける。

葉はやや厚くテカテカしており、毛がない。小葉の先端がまるくなっているのがかわいらしい。

ハマボウフウ

Glehnia littoralis F.Schmidt ex Miq.

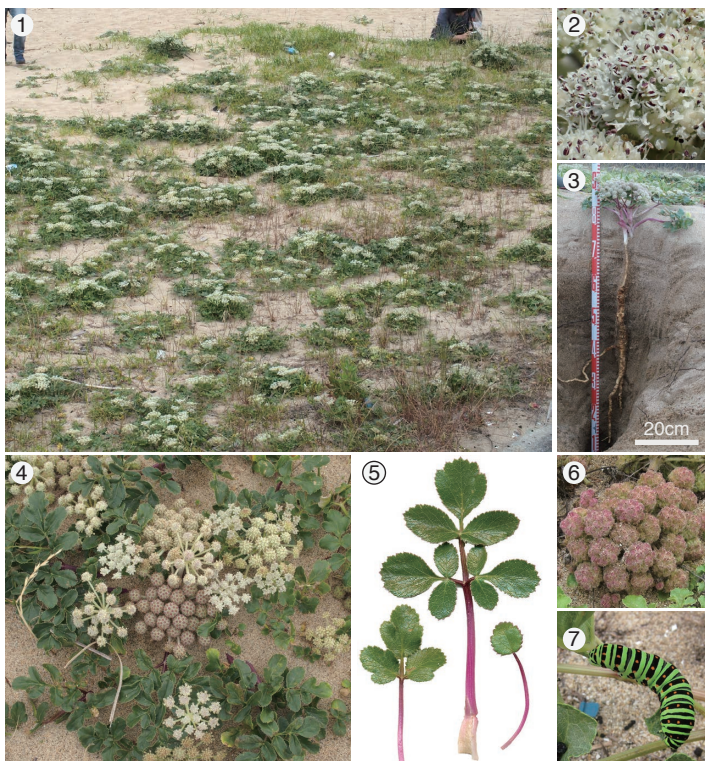
国内分布：北海道～琉球

開花時期：6～7月

多年草

在来種

花は白くてやわらかく、若い果実は緑色から赤色の硬い球形、いよいよ熟してくると枯葉のような色でばらばらになって地面にこぼれる。葉は食用になり、味はパセリそっくり。東北や北海道に生えるハマボウフウは茎が伸びあがり、まるで別種の趣。



①砂の海浜の代表的な植物。群生する景色は見事。②花の拡大。赤紫色のものは雄しべ。③ゴボウのような太く長い根を伸ばす。④濃い緑色でテカテカの葉を地表にひろげ、中央に花を付ける。⑤葉。芽生えは小葉が1枚。⑥赤く色づいた若い果実。⑦セリ科を食草とするキアゲハの幼虫がときどき見られる。セリ科と縁深い昆虫も観察ポイント。

塩湿地の植物

普通、海浜の汀線付近は波当たりが強く、地表が常に攪拌されるため植物は生えられない。ところが、内湾や入り江の奥などでは波当たりのほとんどない海浜ができることがある。この波当たりのない海浜の汀線付近を「塩湿地」と呼ぶ。塩湿地では、高塩分と過湿に耐えられる植物のみが生育し、独特の植生ができる。塩湿地は波当たりのない海浜のほか、河口干潟、砂嘴の内側、潟湖、干拓地、塩田跡地などにもできる。また、塩湿地ではごくわずかな地形の高低差で生える植物が異なるため、成帯構造がわかりやすい。



①塩湿地の成帯構造。手前の赤い植物はハマツナ、中央の緑の植物はホソバハマアカザ、奥の背が高く黄緑の植物はアイアシ。②③塩湿地の様子。微妙な高さの違いで生えている植物が異なるのがわかる。

シバナ科

レア度：見つけたらすごい★★★★

シバナ

Triglochin asiatica (Kitag.) Á. et D.Löve

国内分布：本州～九州
開花時期：9～10月

多年草

在来種



葉は細長い。



細長い花序をつける。

河口や内湾奥の泥質の塩湿地に生える。塩湿地の植物の中でも、最も低い位置に生え、瀬戸内海沿岸の各地に生育しているが、見られる場所は限られている。

シオクグ

Carex scabrifolia Steud.

国内分布：北海道～琉球
穂のある時期：4～7月

多年草

在来種



雌小穂.



葉は細長くて硬い.

塩湿地の低い位置に生えていることが多く、シバナと同様、よく水没する場所にいる。地下茎を伸ばして増え、よく群生する。

イネ科

レア度：たまに見る ★★★

アイアシ

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

国内分布：北海道～九州
穂のある時期：6～10月

多年草

在来種



塩湿地の植物の中では背が高い、穂は棒状.



塩湿地の中では高い位置に生える。葉はヨシによく似ているが、アイアシの穂は太くて棒状になるので、穂の形を見れば迷わず区別できる。

イネ科

レア度：めっちゃ見る ★★☆☆

ヨシ

Phragmites australis (Cav.) Trin. ex Steud.

国内分布：北海道～琉球
穂のある時期：8～10月

多年草

在来種



河口などでよく群生する.



穂はふさのような形.

湖畔・河辺などの淡水湿地によく生えているが、塩湿地にも生える。塩分濃度の高い場所では淡水のものにくらべて背丈が低くなる。

ナガミノオニシバ

Zoysia sinica Hance var. *nipponica* Ohwi国内分布：関東以西～九州
穂のある時期：5～6月

多年草

在来種



マット状に群生する。



穂の様子。

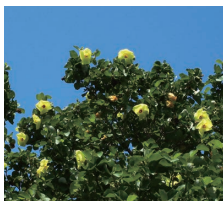
河口の中州などの砂礫地で、比較的低い位置に生える。地下茎で増え、よくマット状に群生する。よく似たオニシバよりも小穂が細い。

ハマボウ

Hibiscus hamabo Siebold et Zucc.国内分布：関東南部～奄美大島
開花時期：7～8月

低木

在来種



大きな黄色い花をつける。個々の花は1日でしぼむ。



入り江や流れの緩やかな河口、砂嘴の内側などに生える。太い幹は地面を這い、群生地ではどこまでが一つの個体が全くわからない。見つけたらとてもうれしい。

ハマサジ

Limonium tetragonum (Thunb.) A.A.Bullock国内分布：本州～奄美大島
開花時期：9～11月

多年草

在来種



直径3mmほどの小さい花をたくさんつける。



どちらかというと礫が多い場所を好み、ハママツナより高く、アイアシより低い位置に生えることが多い。さじ（スプーン）のような葉が名前の由来。結実後に枯死する。

イソホウキギ

Bassia scoparia (L.) A.J.Scott

国内分布：東海以西～九州

開花時期：8～10月

一年草
夏型

在来種



葉の根元に花がつく。



葉は少し肉厚。

砂礫地に生える。河口の塩湿地の高い位置に多い印象があるが、砂の海浜にも生えることもある。近年、園芸の対象として人気が高いコキアは近縁な植物。

アッケシソウ

Salicornia europaea L.

国内分布：北海道・宮城県・瀬戸内海沿岸

開花時期：8～9月

一年草
夏型

在来種



10月ごろ、秋が深まると真っ赤になる。



日本では瀬戸内海と北海道とび離れて分布する。宮城県にもあったが絶滅した。瀬戸内海では塩田跡地や干拓地に点在していたが、現在、自生地はほとんどない。

マツナ

Suaeda glauca (Bunge) Bunge

国内分布：宮城～九州

開花時期：7～10月

一年草
夏型

在来種



塩湿地ではホソバハマアカザなどと混じって中程度～高い位置に生える。ハママツナに似ているが、葉はより細長く、背が高くなるのが特徴。

すっと立ち上がった姿は確かに松の幼木に似ている。

ハママツナ

Suaeda maritima (L.) Dumort.

国内分布：宮城以南～琉球

開花時期：6～10月

一年草
夏型

在来種



生えている様子。 左が開花，右が非開花の枝。

干潮時以外は水没するような低い位置に生え、しばしば塩湿地の最前線に群生する。開花している株は葉が短く分枝が多い。開花していない個体とは形がずいぶん異なる。

フクド

Artemisia fukudo Makino

国内分布：近畿地方以西～九州

開花時期：9～10月

多年草

在来種



結実後に枯死する。 葉の匂いを嗅いでみよう。

ハマサジと同じく、塩湿地の中くらいの高さの位置に生えることが多く、どちらかというと泥質の立地を好む。ヨモギと同属で、葉を揉むといい香りがする。

ウラギク

Tripolium pannonicum (Jacq.) Schur

国内分布：北海道東部、関東～九州

開花時期：8～11月

一年草
冬型

在来種



地味な植物が多い塩湿地でひととき目立つ。

塩湿地の低い位置に生える野菊。分厚く細長い葉だけ見るとキク科のようには見えないが、花はぱっちりキク科。タネには長い冠毛がついており、風で運ばれる。

瀬戸内海の海浜植物の現状と課題

瀬戸内海の海岸は古くから人が利用してきたため、開発の影響を強く受けてきました。例えば、環境省の第4回自然環境保全基礎調査によると、瀬戸内海区の海岸線のうち自然海岸は36.7%しか残されておらず、これは全国平均を下回っています(図8, 9)。また、後背地の開発や海岸浸食によって砂の海浜の幅が縮小した地域もあります。このような環境変化は海浜植物の生育地の減少をもたらし、多くの地方版のレッドデータブックに海浜植物の名前が載っています(p48-49 参照)。

このような現状に対して何ができるのでしょうか。まずは海浜植物の生育状況の実態を知ることが大切です。自分が住んでいる地域のどこに海浜があるのか、そこにどんな海浜植物が生えているのか、そういったことを記録することが海浜植物の保全の基礎になります。以前はみられた植物がいなくなった、以前はいなかった植物がみられるようになった、こういった変化は細かな観察記録がないとわかりません。

それから、海浜植物のファンを増やすことも大切です。多くの人が海辺に関心を持ち、海辺の自然を楽しむことで、海辺の自然に何かよくない変化が起きそうなときに、それを修正する流れが生まれやすくなります。海浜植物のファンを増やすことは長い目で見たときに海辺の自然を守ることにつながるので

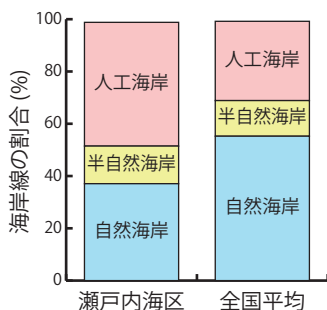


図8. 瀬戸内海の自然海岸率



図9. 護岸され植物が生えられない海岸。

瀬戸内海のオススメ海浜

筆者らが知る海浜植物の観察にオススメの場所を紹介します。瀬戸内海は広い！すべての海岸を詳しく見たわけではありません。ここに載っていないでも面白い場所はたくさんあります。

① 大阪府泉南市 岡田浦

樫井川の河口にある小さな砂の海浜。ハマボウフウをはじめ、都会の浜にしてはいろいろな植物がいます。公共交通機関で気軽に行けるのも良い点です。南海電車の岡田浦駅から徒歩 15 分。

② 兵庫県西宮市 御前浜・香櫨園浜

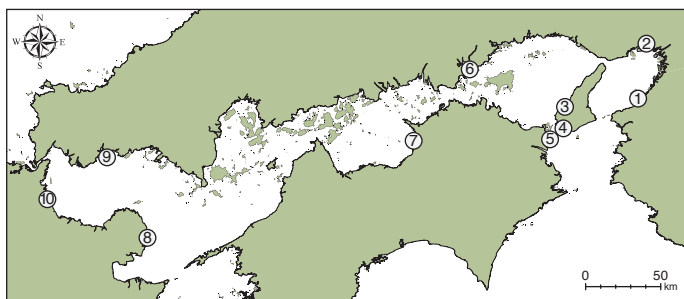
夙川の河口にあります。大阪湾の奥部ではとても貴重な自然海浜です。埋立地に囲まれた都市の海浜で、種数は少ないながらも海浜植物を観察できます。阪神電鉄香櫨園駅から徒歩 15 分。

④ 兵庫県南あわじ市 吹上浜

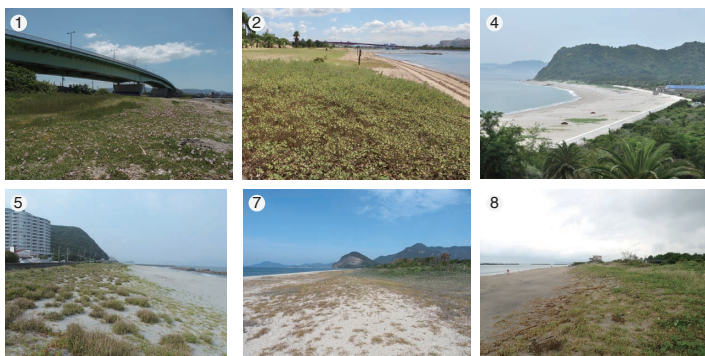
海浜の西寄りに、よく発達した砂丘がみられます。北方系の種を除けば、このガイドに載っている海浜植物をほとんど観察できます。背後に崖地があり、崖の植物も楽しめます。

⑤ 徳島県鳴門市 黒山

典型的な砂丘植生の成帯構造が観察できます。海浜植物の種類数も多く、このミニガイドを使って観察をするにはぴったりの場所です。鳴門北インターのすぐ南とアクセスも良好です。



瀬戸内海のオススメ海浜. ①大阪府泉南市 岡田浦, ②兵庫県西宮市 御前浜・香櫨園浜, ③兵庫県南あわじ市 慶野松原, ④兵庫県南あわじ市 吹上浜, ⑤徳島県鳴門市 黒山, ⑥岡山県玉野市 番田, ⑦香川県観音寺市 有明浜, ⑧大分県国東市 綱井海岸, ⑨山口県山口市 中道海水浴場, ⑩福岡県行橋市 祓川河口。うち 6 ヶ所を本文で紹介した。



オススメ海浜植物観察ポイントの様子. ①大阪府泉南市 岡田浦, ②兵庫県西宮市 御前浜・香櫛園浜, ④兵庫県南あわじ市 吹上浜, ⑤徳島県鳴門市 黒山 ⑦香川県観音寺市 有明浜, ⑧大分県国東市 綱井海岸

⑦ 香川県観音寺市 有明浜

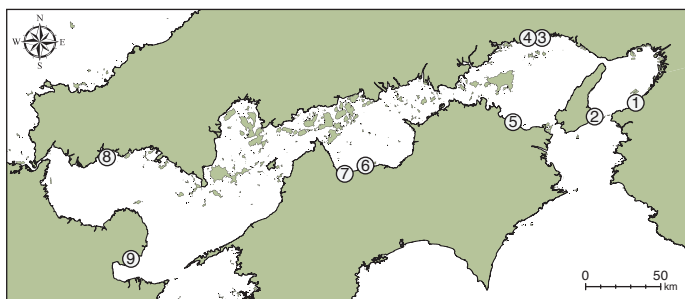
見られる海浜植物の種類がとても多い場所です。「有明浜の海浜植物群落」として観音寺市指定天然記念物に指定されています。

⑧ 大分県国東市 綱井海岸

砂丘地形の後ろのクロマツ林までセットになった海浜です。ケカモノハシやビロードテンツキなど、瀬戸内海ではめずらしい海浜植物が普通に生育しています。

瀬戸内海のオススメ塩湿地

オススメの塩湿地も場所だけ紹介しておきます。



瀬戸内海のオススメ塩湿地. ①大阪府阪南市 男里川河口, ②兵庫県洲本市 成ヶ島, ③兵庫県姫路市 揖保川河口, ④兵庫県相生市 相生湾, ⑤香川県東かがわ市 湊川河口, ⑥愛媛県新居浜市 国領川河口, ⑦愛媛県西条市 加茂川河口, ⑧山口県山口市 秋穂, ⑨大分県杵築市 八坂川河口, 日出町 丸尾川河口。

表 瀬戸内海の海岸植物一覧（レッドリスト掲載状況つき）

「日本の海岸植物チェックリスト」（澤田 2007）から瀬戸内海沿岸で記録がある植物を抜き出して一覧を作成した。また、これらの植物の瀬戸内海沿岸府県版および環境省版レッドリストへの掲載状況を付記した。（続く）

科名	和名	レッドリスト掲載状況										
		大	兵	岡	広	香	愛	徳	山	福	大	環
		阪	庫	山	島	川	媛	島	口	岡	分	境
		'14	'10	'09	'11	'04	'14	'14	'02	'11	'11	'14
砂や礫の海浜に生える植物												
ヒガンバナ	ハマオモト				A				C	A		
カヤツリグサ	ハマアオスゲ											
	コウボウムギ	B										C
	コウボウシバ											
	ビロードテンツキ	X	A	X		B	A	B	C			C
イネ	ケカモノハシ	X		B		C						B
	オニシバ	X	C			C						
ハマビシ	ハマビシ	A	A	A	A	B	A		A	X		A
マメ	ナルトオウギ							X				X
	ハマナタメ			B		A						
	ハマエンドウ	C										
スマレ	アツバスマレ											
アブラナ	タチスズシロソウ	X	D				X					A
	ハマハタザオ						D	D				
	ハマダイコン											
タデ	アキノミチヤナギ							C				
ヒユ	マルバアカザ				C							
	オカヒジキ											
	ハマサオトメカズラ											
ハマミズナ	ツルナ											
ムラサキ	スナビキソウ	X	C			A	D					A
ヒルガオ	ハマヒルガオ											
	ハマネナシカズラ	X				A	D	A	A			D B
	ゲンバイヒルガオ						A					A
オオバコ	ウンラン	X	A		D	A	A	X		D		
シソ	ハマゴウ	B		C								
	ナミキソウ	X	B	C	C	A	A	A		A	A	
ハマウツボ	ハマウツボ	X	A	B	C	A	A	A	C	A	D	B
キク	ハマアザミ			A				B				
	ハマニガナ			C	B		C	B	B			
	ネコノシタ	X	B	A		A	B	A				
セリ	ハマゼリ					C	B					
	ハマボウフウ	A		C								
風衝草原や低木林に生える植物												
クスノキ	ハマビワ											
ススキノキ	ハマカンゾウ		B									C
キジカクシ	クサスギカズラ									A		
イネ	ワセオバナ											
ツバキ	ハマヒサカキ		C	A								
キョウチクトウ	イヨカズラ								C	B		
セリ	ハマウド				C							
浅海域に生える植物												
トチカガミ	ヤマトウミヒルモ	D	A	A	C	A	B	A				A
アマモ	アマモ									C		

(続き) 府県版レッドリストでは絶滅危険度のカテゴリー名が統一されていない。ここではXは絶滅(EX)および野生絶滅(EW)相当, Aは絶滅危惧ⅠA類(CR)およびⅠB類(EN)相当, Bは絶滅危惧Ⅱ類(VU)相当, Cは準絶滅危惧(NT)相当, Dは情報不足(DD)相当とした。府県名の下の数字は、各府県版レッドリストの発行年(西暦下二桁)を表す。発行年はすべて2000年以降である。

科名	和名	レッドリスト掲載状況										
		大 阪 '14	兵 庫 '10	岡 山 '09	広 島 '11	香 川 '04	愛 媛 '14	徳 島 '14	山 口 '02	福 岡 '11	大 分 '11	環 境 省 '14
塩湿地に生える植物												
シバナ	シバナ		A	A	A	A	A	A	C	A	A	C
アマモ	コアマモ		A	A			C	B		D	B	
ヒルムシロ	カワツルモ	X	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C
	イトクズモ	X			A	X	A	A	C		A	B
イグサ	ドロイ		B	B		A	D		A	A		
カヤツリグサ	イセウキヤガラ	A						B		B		
	シオクグ	C			C	C						
	チャボイ						A	B		X		B
	イソヤマテンツキ		C	C								
	ナガボテンツキ	D	A	A			A	A			B	
イネ	アイアシ	C	C	C	C	B	B					
	ナガミノオニシバ	A	C	C		C						
クロウメモドキ	ハマナツメ						D	A			A	B
アオイ	ハマボウ	X	A	A		A	B	C	C	B	B	
イソマツ	ハマサジ	A	C	C	C	C		B	C	B	B	C
ナデシコ	ウシオツメクサ					A		D		A		
ヒユ	ホソバハマアカザ	C	C	C								
	ハマアカザ		C	C								
	イソホウキギ		X	X		C		B		B	C	
	アツケシソウ					A	X	X				B
	マツナ		A	A	C	C	C	A				
	シチメンソウ									A	D	B
	ヒロハマツナ		A	A	A				A	A	A	B
	ハママツナ	A	C	C		C		C			C	
キク	フクド	X	B	B	C	B	B	B		B	C	C
	ウラギク	C	C	C	C	B	B	C	C	A	B	C
岩場や崖に生える植物												
ホングウシダ	ハマホラシノブ		A	A			D	B			A	
カヤツリグサ	ヒゲスゲ		A	A				C				
	イソアオスゲ											
	シオカゼテンツキ						A	D			B	
イネ	ハチジョウススキ											
イネ	ハマエノコロ											
ベンケイソウ	タイトゴメ		C	C		A						
トウダイグサ	イワタイゲキ		B	B	C	A		C			C	
ナデシコ	ハマナデシコ											
ヒユ	ソナレムグラ											
サクラソウ	ハマボッス											
キク	アゼトウナ		C	C		B						
	ノジギク		C	C		A						
	アシズリノジギク										C	
セリ	ボタンボウフウ		B	B				A				

参考文献

- 浅井元朗 (2015) 植調雑草大鑑. 全国農村教育協会, 東京.
 浅野貞夫 (2005) 原色図鑑 芽ばえとたね. 全国農村教育協会, 東京.
 畔上能力ほか (2013) 野に咲く花 増補改訂新版, 山と溪谷社, 東京.
 巖佐庸ほか編 (2013) 岩波生物学辞典. 岩波書店, 東京.
 中西弘樹 (1988) 海浜地形と海浜植生に関する用語について. 植物地理・分類研究 36(2):123-126
 中西弘樹 (2008) 海から来た植物—黒潮が運んだ花たち. 八坂書房, 東京.
 大橋広好ほか編 (2015-2017) 改訂新版 日本の野生植物 1-4. 平凡社, 東京.
 佐竹義輔ほか編 (1981-1982) 日本の野生植物 草本 I, II, III. 平凡社, 東京.
 佐竹義輔ほか編 (1989) 日本の野生植物 木本 I, II. 平凡社, 東京.
 澤田佳宏ほか (2007) 日本の海岸植物チェックリスト. 人と自然 17:85-101.
 清水矩宏ほか (2001) 帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京.
 塚本洋太郎編 (1994) 園芸植物大事典. 小学館, 東京.
 谷城勝弘 (2007) カヤツリグサ科入門図鑑. 全国農村教育協会, 東京.
 米倉浩司 (2012) 日本維管束植物目録. 北隆館, 東京.

生物名等さくいん

- | | | |
|------------------------|----------------------|----------------------|
| アイアシ・・・40, 41, 42 | コキア・・・・・・・・43 | ハマナタマメ・・・・・・・・16 |
| アオスゲ・・・・・・・・9 | ゴボウ・・・・・・・・39 | ハマナデシコ・・・・・・・・21 |
| アキノミチヤナギ・・・20 | コマツヨイグサ・・・18, 36 | ハマニガナ・・・・・・・・36 |
| アサガオ・・・・・・・・30 | シオクグ・・・・・・・・41 | はまにがなもどき・・・・36 |
| アサギマダラ・・・・・・・・29 | シバ・・・・・・・・15 | ハマビシ・・・・・・・・13 |
| アシタバ・・・・・・・・38 | シバナ・・・・・・・・40, 41 | ハマヒルガオ・・・・・・・・ |
| アッケシソウ・・・・・・・・43 | シロザ・・・・・・・・23 | 5, 7, 11, 30, 36 |
| アツバキミガヨラン・・・7, 8 | シロバナマンテマ・・・22 | ハマボウ・・・・・・・・42 |
| アメリカネナシカズラ 7, 31 | スイカ・・・・・・・・22 | ハマボウフウ・・・3, 39, 46 |
| イソアオスゲ・・・・・・・・9 | スナビキソウ・・・・29, 33 | ハマボウス・・・・・・・・27 |
| イソホウキギ・・・・・・・・43 | セダム・・・・・・・・16 | ハママツナ 40, 42, 43, 44 |
| ウチワサボテン類・・・26 | ダイコン・・・・・・・・19 | ハマユウ・・・・・・・・8 |
| ウマゴヤシ・・・・・・・・28 | タイトゴメ・・・・・・・・16 | ビロードテンツキ 12, 47 |
| ウラギク・・・・・・・・44 | チガヤ・・・・・・・・4, 5, 13 | フクド・・・・・・・・44 |
| ウンラン・・・・・・・・32, 33 | ツルナ・・・・・・・・25 | フジナデシコ・・・・・・・・21 |
| オオオナモミ・・・・・・・・28 | トベラ・・・・・・・・4 | フトハナバチ属・・・・21 |
| オオフタバムグラ・・・28 | ナガミノオニシバ・・・42 | ボウムギ・・・・・・・・15 |
| オカヒジキ・・・・・・・・5, 24 | ナミキソウ・・・・・・・・33 | ホソバハマアカザ・・・・ |
| オニグルミ・・・・・・・・18 | ナルトサワギク・・・・37 | 23, 40, 43 |
| オニシバ・・・・・・・・12, 15, 42 | ネコノシタ・・・・・・・・37 | ホソムギ・・・・・・・・15 |
| カーネーション・・・・21 | ネズミムギ・・・・・・・・15 | マサキ・・・・・・・・4 |
| カボチャ・・・・・・・・22 | ネズミムギ類・・・・15 | マダラケシツブゾウムシ 31 |
| カワラヨモギ・・・・・・・・35 | ネナシカズラコブフシ 31 | マツナ・・・・・・・・43 |
| キアゲハ・・・・・・・・39 | パセリ・・・・・・・・39 | ママコノシリヌグイ・・・20 |
| キムネクマバチ・・・・34 | ハタガヤ・・・・・・・・9 | マルバアカザ・・・・・・・・23 |
| キュウリ・・・・・・・・35 | ハマアオスゲ・・・・9 | マンテマ・・・・・・・・22 |
| ギョウギシバ・・・・・・・・15 | ハマウツボ・・・・7, 35 | メリケンムグラ・・・・28 |
| ゲンバイヒルガオ・・・・18 | ハマウド・・・・・・・・38 | ユッカガ・・・・・・・・8 |
| クロマツ・・・・・・・・4, 5 | ハマエンドウ・・・・17 | ヨシ・・・・・・・・41 |
| ケカモノハシ・・・・・・・・ | ハマオモト・・・・・・・・8 | ヨモギ・・・・・・・・35, 44 |
| 4, 5, 9, 14, 47 | ハマグルマ・・・・・・・・37 | |
| コウボウシバ・・・・・・・・11 | ハマゴウ・・・4, 13, 31, 34 | |
| コウベギク・・・・・・・・37 | ハマサジ・・・・・・・・42, 44 | |
| コウボウムギ・・・・・・・・ | ハマゼリ・・・・・・・・38 | |
| 3, 4, 5, 9, 10, 11, 37 | ハマダイコン・・・5, 17, 19 | |

おわりに

海浜植物は美しく、その生き様はとても面白いのに、なぜかいまいち憧れの対象になっていないように思います。例えば、高山植物とくらべてみると、どちらも極端な環境に生きる美しい花をつける植物たちという点では共通しています。しかし、高山植物の図鑑や高山植物をモチーフにしたグッズがたくさんあるのに対し、海浜植物の図鑑は少なく、グッズなんてまずありません。

高山植物には文字通り「高嶺の花」の魅力があります。一方、海浜植物はすぐ近所の海辺にいて、いつでも気軽に会いに行けるところが魅力です。何度も繰り返し観察できるから、生き様の秘密に迫る楽しさを味わえます。

まずはこのミニガイドを手に海浜植物に会いに行きまよう。もし海浜植物を好きになったら、次はだれかを誘って海辺に出かけ、海浜植物のファンを増やしてください。

謝辞 楠瀬雄三さんと長谷川匡弘さんにはハマビシのコラムを書いていただきました。中条武司さんから地形の説明に関してコメントをいただきました。米澤里美さんにはコウボウシバの写真を、大西真理子さんにはケカモノハシのたわしの写真を提供していただきました。ミニガイド作成のための野外調査に対して JSPS 科研費 JP 24240113 『自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探究」事業の実践と連携効果の実証』から、ミニガイドの出版に対して日本財団の海の学びミュージアムサポートから助成を受けました。ありがとうございました。

ミニガイド No.30「瀬戸内海の家浜植物」

A Field Guide to Coastal Plants in Setonaikai

著者：横川昌史 (Masashi Yokogawa, 大阪市立自然史博物館)・
澤田佳宏 (Yoshihiro Sawada, 兵庫県立淡路景観園芸学校)

2017年7月21日 初版発行

発行：大阪市立自然史博物館

Osaka Museum of Natural History

印刷：ヨシダ印刷

© 大阪市立自然史博物館

表紙イラスト：橘高加奈子

ページデザイン：米澤里美 (大阪自然史センター)



海の学びミュージアムサポート

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION